

〰〰〰〰 1998年度採集観察会 〰〰〰〰

場 所：埼玉県飯能市天覧山 雨天決行！！  
日 程：第3回 10月18日(日)

(以後の予定 最終回1999年2月21日(日))

集 合：西武池袋線飯能駅北口階段下 午前10時(時間厳守)

10時05分発、国際興行バス(2番乗り場)乗車 ； バス停から天覧山山頂へ。  
「天覧山下」下車(¥160) 所要時間約15分 ； 山頂で昼食後付近で採集観察予定

世話人：平松毅久 (☎ 0492-33-8792)

注) 遅れて来られる方は2番乗り場で、日高方面行きと高麗川方面行きと武蔵台方  
面行き以外のバスにご乗車下さい。但し本数が少ないのでご注意下さい。

10時05分以降は10時25分、11時06分、同20分、同37分があり  
ます。またバスのダイヤが変更になることがあります。何卒ご了承下さい。  
昼食は予め用意していただいた方が無難です。

K I S H I D A I A 発刊「30周年記念号」の原稿募集 !

1999年1月でKISHIDAIAが誕生してから、30年になります。KISHI  
DAIA76号および77号を「30周年記念号I・II」として出版することになりまし  
た。そこで会員から記念原稿を募集しますので、たくさんのご投稿をお待ちします。

記念文：談話会の活動についての思い出、要望など何でも。字数制限なし。

締 切：76号 1998年10月末日

77号 1999年 2月末日

↓ 原稿送付先 ↓

詳細は新海 明  
〒190-0022  
東京都立川市錦町3-12-16-1103  
☎042-522-2605

池田博明  
〒258-0018  
神奈川県足柄上郡大井町金手1099  
電子メールアドレス fwg9084@mb.infoweb.ne.jp

Φ Φ 合同例会のお知らせ Φ Φ

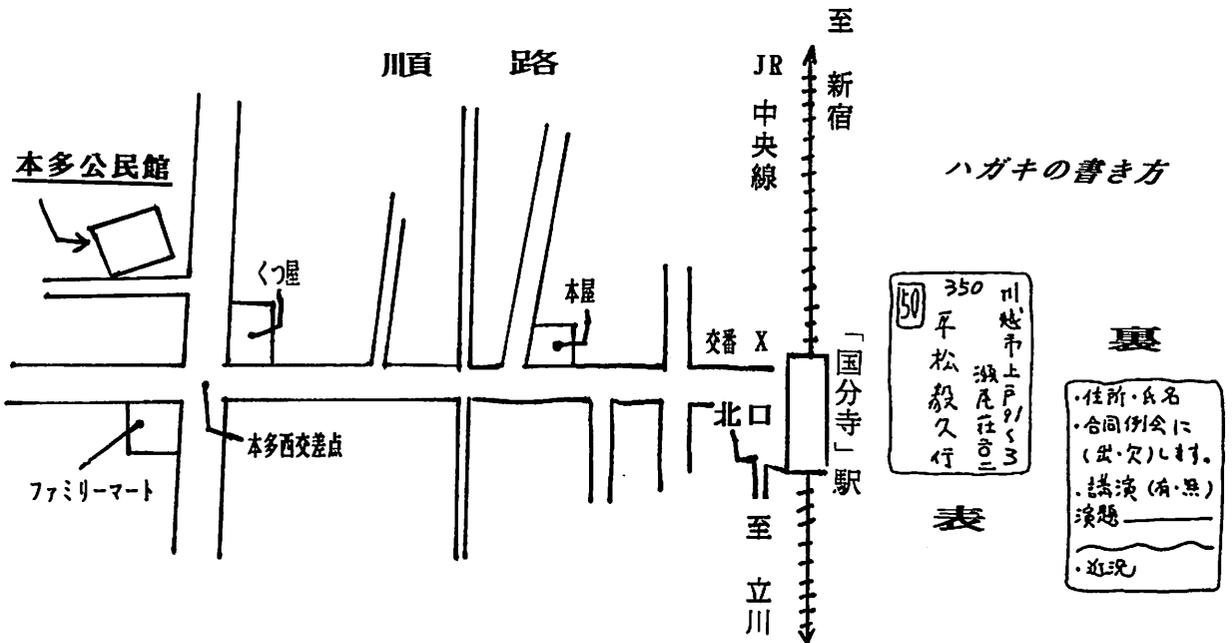
今回から 会場が変更 になりますので、ご注意ください。

日 時：12月6日(日) 10:00～

場 所：東京都国分寺市立 **本多公民館** (☎ 042-321-0085)  
(国分寺市立本多図書館と合同施設です)

東京都国分寺市本多1-7-1 JR中央線「国分寺」駅北口 下車約7分  
多足類懇談会と合同による講演と懇親会  
⇒世話人：桑原幸夫 (☎ 0493-24-9324) 多足類懇談会

都合により会場は「**三合同例会**」の名称で借りています。東京蜘蛛  
談話会ではありませんので、よろしくお願いします。



同封のハガキにて合同例会出欠の連絡と近況を、事務局・平松までお知らせ下さい。  
いつものように近況は「通信」紙上に掲載いたします。

秩父山中にはクマとシノビグモがいた！

新海 明

合宿2日目の昼食は、民宿「甲武信」のなかなか気のきいたおにぎりでした。ただ、それを食べる場所が問題です。車が何台も止められ、全員がすわれて、かつ涼しい所となると、毎年のことながら山中にあってはなかなか見つからないのであります。前日の下見でそれらの条件をまあ満たすであろう場所がありました。演習林のトラクター置場があったスギ・ヒノキの植林地のそばの林道です。ここには、運よく冷たい水が湧きだす水場もあったので尚更でした。ここが、後にシノビグモの発見の「聖地」になろうなどとはこの時には誰ひとりとして知る由もなかったのです。

談話会の宴会係を自他ともに認める悲しい性ゆえ、皆においしい水を飲ませようと「おじいさんは水くみにでかけた」のであります。林道を曲がったすぐそこ、とばかり思っていた水場は、歩くと意外にも遠かったのは昨日の下見では車で移動していたせいでしょう。おにぎりをおいしそうに食べている皆さんに、ペットボトルに汲んだ冷水を配ったのですが、思いの外飲んでくださった方は少なめでした。それもそのはず、採集旅行に慣れている合宿参加者はみな水筒や缶ジュースを持参していたのでした。午前中は曇ってとても涼しかったのですが、このころになると雲間に太陽がカッと射し込んできたのには参りました。やはり7月。直射日光は秩父にあっては強烈でした。私もそうでしたが参加者一同かなりバテ気味です。

午後の採集会はそんな雰囲気ゆると再開されました。私はまたいつものようにチンタラと林道沿いを歩いていました。すると、前から木村さんが戻ってきました。「向こうにあるクマトラップのなかにクマがかかっていますよ」。「クマトラップ！」と聞くと何か巨大なパチンコ式のネズミ捕りのようなものとか、ゴキブリホイホイのクマバージョンのようなものを思わず想像してしまう方もいるかも知れませんが（いるわけないか）、実はドラムカンを2本つなげ、その中にミツバチの巣箱を入れたものなのだそうだ。クマが蜜を盗みに入ると蓋が閉まるというわけで、昔なつかしいあの「ネズミ捕り」の仕掛けなのであります。ただ、ネズミの場合は捕ったあとは「水攻め」にしたのですが、このクマは麻酔を撃ったあとで発信機を取り付けられる運命となっているのだと宮下さんに教えてもらいました。その宮下さんはいつだか麻酔がよく効いてないクマにここで追い掛けられたことがあったそう。そんなことを思い出していたら、命知らずの池田さんがこともあろうに、クマトラップのドラムカンをトントンと叩きだしたではありませんか。

「いつ死んじゃうかわからないよ」が口癖の氏ですが、なるほどそれは「あり得るなァ」と思わず実感したその瞬間に、中から突然蓋に飛び掛かるとてつもない音がしたのです。一同、ギョとしてドラムカンから飛びのいたのは言うまでもありません。池田さんと違っ

てノミの心臓しかない私などは口からノミが飛び出しそうでした。麻酔でふらついたクマに追い掛けられた宮下さんなど「ヒョウショウジョウ」ものですね。それでも恐いものみたさの複雑な心情は人間には等しくあるようで、次から次へと参加者が訪れてくるのでした・・・。

一時は晴れていた空も、急に雲がひろがり雨がバラバラと落ちてきました。集合時間もせまり大した成果も上がらないままに、駐車場まで戻ってくると谷川さんを中心にして人垣ができていました。聞くと「シノビグモらしきものが採れた」とのこと。確かに写真などで見た斑紋とよく似ていました。しかし、まさか・・・という気持ちも交差していたのです。採集した今井さんによると、あの「水場」で採れたとのこと。とっさのことではありましたが、合宿担当者の独断と偏見で「延長戦」に持ち込むことにしたのです。シノビグモ採集部隊が急速編成されて、あの水場に突撃したのです。やる気十二分の精鋭部隊といえども悲しいかな、生きたシノビグモをみたのは誰ひとりとしていないのです。わずか2×2m位の広さしかない水場でしたが、今井さんが採った雄の亜成体の体斑のようすを見比べながら、根気よく小石を持ち上げたり付近のコケや雑草の間を掻分け掻分け、目を皿のようにして採集を続け、ついに数頭のシノビらしき幼体を確保することができたのでした。採集した個体は谷川さんが持ち帰り飼育に挑戦して成体にしようということになりました。

後日、谷川さんから連絡が入りました。「持ち帰った雄の亜成体が脱皮して成体となったのでバルブの構造を調べたところ正真正銘のシノビグモだった」とのこと。関東地方の初記録となる大成果。なんと「秩父山中にもシノビグモが生息していた!」のでした。

---

## ボウズと大雨 ——— 秩父合宿異聞

笹岡文雄

東京生れの東京育ちの自分にとって、秩父すなわち埼玉県とは庭みたいなもの。行ったことも無いくせにたかをくくっておりました。それが電車を乗り継ぎバスに乗り、着いたところが大滝村。これでも首都圏か！移動しただけのことはある山深い所でした。

さて晴天の下界を出発したものの、現地で日が落ちる頃は何やら怪しい雲行き。それが夜間観察の時間に合わせるかのような大雨になりました。もう雨天の観察など誰も話題にもしない談話会。でも誰かがこのことも書き残さないといけません。豪雨とまではいかないものの相当の雨の下、東大演習林懐中電灯の光が乱舞するのです。

ともあれ自分の方は翌日の採集でゴソゴソ森の中に入り込んだものの、大した収穫もなく終わってしまいました。腕が三流なのか、それにしても原生林の中にはどうしてこんなにもクモがいないんでしょうか。誰か教えて下さい！（おまえが研究しろといわれそう）なんともはやクモもクマも見れずの1日でした。そんな苦しくもあり、そして楽しくもありの合宿でしたが、帰ったとたん扁桃腺を腫らして2日も寝込んでしまいました。ヤレヤレ。

埼玉に住んでやがて10年になるが、何を隠そう秩父地方へは1度も言った事がない。正丸から先へ行った事さえない。せっかくの機会なので地元地区の合宿に参加することにした。7月25日は仕事のため夜7時頃車で川越を出発。生憎の雨は次第に強くなり大滝村へ入る頃には土砂降りであったがなんとか宿に辿り着いたのが9時半頃。誰もいない。夜間採集に出たに違いない。やはり雨が降ろうが槍が降ろうが談話会の伝統は生きていた（個人的な意見ですけどこんな伝統もうやめにしません?）。程なく夜間採集組は戻って来た。その後は当然反省会という美名のもとまるで無反省な人たち主導の酒盛りである。待ちました!なんとクロマルイソウロウが出たとか（埼玉初記録）。クモを脊にいつものように話が弾む。途中で雪隠に立ちアルコールの成れの果てを放出していると酔眼に張り紙の文字が飛び込んで来た。『朝顔の外に垂らすな竿の露』う〜ん名句!なんと風流な人なのだろうこの宿の主人は—と感動のうちにその日は床に就いた。

翌26日は快晴とはいかぬまでもとりあえず雨は止んでいた。出発前にとんだ大失態。部屋の前に車を回したところ前夜からの雨でぬかるんでいた泥の中にタイヤがめり込んで動けなくなってしまったのである。皆さんのご協力で事なきを得た。押しいただいた方々には心から感謝します。更なる犠牲者が出ないように轍付近に石を敷いた後出発。目的地東大秩父演習林へ。合宿の世話人で演習林を知り尽した宮下助教授をナビゲーターに迎え先頭を走るようになった。知る人ぞ知る『蝶』の権威（昼夜兼用）宮下氏にミヤマカラスアゲハの吸水などを解説していただき心地良いドライブとなる。演習林内で途中下車しドラム缶を2個つなげたツキノワグマのトラップを見学。残念ながらクマは入っていないかった。あとで聞いた話だが別の場所に仕掛けられたトラップにはクマが入っており入口を懐中電灯で照らすとガオーッと唸り声を上げ周囲の人は一瞬のけぞったらしい。もしクモを採りに来てクマにやられたら洒落にならん。その後車で標高1200mを越えたあたりで助手席の宮下氏が「あっクマタカだ!」と声を上げられた。見ると約7~8m先で地上から褐色の大きな翼を広げて飛び立つところだった。車から降りて見上げるとまだそれ程高くない上空を舞っていた。上昇気流がないと高く舞い上がれないそうだがその雄大さに感動。ブナの原生林が残る標高1300m付近で採集開始。クモ自体は少なくタカユヒメ、シロタマヒメ、コオニグモモドキ等北方系が目立った。昼は1000mくらいまで下って採集。今井氏が川でシノビグモらしきクモを発見（その後谷川明男氏が飼育で証明。埼玉初記録）。夕食後直接見なかったが、造網中のオニグモが腹部背面に双翅類（キモグリバエ?）が卵を生み付けられたのが話題をさらった。夜間採集の後の反省会もこの日は控え目にして就寝。

合宿最後の27日は秩父市内の秩父ミュージックパークへ車で移動。林内にはツノナガイソウロウ、カラスゴミ（カギツメカラス?）、トゲグモ等がいたが、目を引いたのがコナラの樹液を吸う紫紺の翅も鮮かなオオムラサキだった。まさに合宿の有終の美を飾るに相応しい蝶の出現であった。最後に合宿に多大なご尽力を賜った宮下直博士に感謝します。

日本蜘蛛学会第30回大会



立命館大学BKC

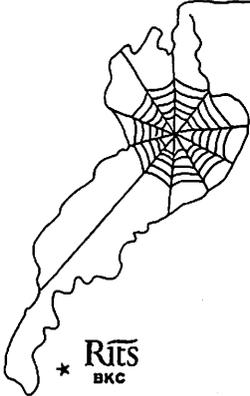
30

Shiga

August 21,22,23

ARACHNOLOGICAL SOCIETY OF JAPAN

会期 1998年8月21日(金)・22日(土)・23日(日)  
会場 滋賀県草津市野路東1-1-1  
立命館大学びわこ・くさつキャンパス



ARACHNOLOGICAL SOCIETY OF JAPAN

日本蜘蛛学会

— 大会プログラム表紙 —

よるクモグッズの展示が行われました。またクモ好き?の落語家桂あやめさんのあいさつなどもありました。そして中島はるさんによるクモに関する楽曲の紹介。最後は中島さん作曲の「蜘蛛の子」によってしめくられました。

プレシンポとはいえ、大会委員長の立命館大学助教授吉田真さんをして、「本大会より盛り上がったシンポジウム」と言わしめるほど予想以上の盛会となりました。

# 日本蜘蛛学会大会

## 開催さる!

### その1 プレシンポジウム

今年で第30回目を迎えた日本蜘蛛学会大会が、8月21~23日・滋賀県草津市の立命館大学びわこ・くさつキャンパスで開催されました。

まず21日の午後は「クモの文化論」——クモの民俗と芸術——をテーマにプレシンポジウムが行われました。

蜘蛛学会とは基本的に、「理科系」の学会です。その大会で”プレ”とはいえ初の超文科系の講演の数々が行われたわけです。

まず斎藤慎一郎さんによる基調講演「クモと日本人の付き合い——クモの民俗と芸術」からスタート。長年のクモ合戦の研究から、生活や地域を通じてクモと密接な付き合いがあること、つまりクモとの距離がその好き嫌いに大に関係しているとわかりました。

クモ合戦の全国的な分布とそのクモを取り巻く方言の数々は、まさに「採集と観察」さながらです。

斎藤さんに引き続いて、多士再々5人の演者のみなさんが次々の講演されました。(演題: 次頁参照)

その他講演テーマに添った船曳和代さんのクモの網の標本、小澤實樹さんのクモの形態デザインのパネル展示。須賀瑛文さん、笹岡提供に

事務局は 平松毅久 〒350-0816 埼玉県川越市上戸91-3 瀬尾荘202

プレシンポジウム講演演目（コーディネーター：細田みどり） → 以下敬称略  
基調講演

斎藤慎一郎「クモと日本人の付き合い——クモの民俗と芸術」

講演

笹岡文雄「日本と外国にみる、クモの玩具」

玩具類各種の展示とその製作傾向について

船曳和代「クモの網の標本作り」

実際のクモの網を固定した標本の展示とその製作法

須賀英文「クモ・話の泉」

文学にあらわれたクモを古事記から現代まで紹介

高橋 登「クモ学資料に見る、クモの写真史」

クモ学資料の数々をスライドにて紹介

小澤寅樹「クモの形態デザイン」

クモとその網を象徴的にデザイン。その展示と解説

中島はる「クモをテーマにした音楽」

「ピアノ曲・クモの糸のはしご」「蜘蛛の子」の披露

→ →

「蜘蛛の子」はCD「白い曼珠沙華——青山恵子が歌う  
中島はるの世界」の中に収録されています。発売：ぼるん舎¥2,500  
または作曲の中島はるさんへ直接FAXにて（03-3712-5425）

## その2 プレイベント 観察会

プレシンポの終了後は、地元公民館の自主事業協力したプレイベントとして「クモの観察会」が行われました。（付録参照）小学生を中心に、中学生、保護者など60余名の参加がありました。そして2～3名の会員が講師となり、5組に分かれて立命館大のキャンパス内を、19時すぎの日が落ちるまで観察をしました。観察中心だったため確認数は30数種でしたが、クロガケジグモ、オダカグモも見つかりました。また観察だけでなく前後に教室でレクチャーもあり、参加者にとっては中身の濃いクモ教室になりました。

## その3 本大会

22日午前から、23日午前の1日半、17の講演が行われ、活発な討議も交わされました。またシンポジウム「クモ糸の多様性」も開かれ、4名の演者による物性から生態にいたるまで多角的な考察がなされました。

尚、来年度99年の大会は広島で行われます。

KISHIDAIA担当は木村知之 〒215-0012神奈川県川崎市麻生区東百合丘4-38-12  
原稿送付は池田博明 〒258-0018神奈川県足柄上郡大井町金手1099

1998年度第1回採集観察会 1998/05/17 於埼玉県飯能市天覧山 天候曇り  
参加者(敬称略) ; 今井正己, 笠原喜久雄, 加藤むつみ, 笹岡文雄, 貞元己良, 嶋田順一  
新海 明, 千田 高史, 西尾三枝子, 平松毅久(以上10名)

## 目録

ジグモ科 ジグモ F y

ハグモ科 ネコハグモ F f

ウズグモ科 マネキグモ F, カタハリウズグモ y

エンマグモ科 ミヤグモ y

M f y e

ヒメグモ科 コンピラヒメグモ f, オオヒメグモ F y e, アシプトヒメグモ F f, オナガ  
グモ f, フタオイソウロウグモ y, ツノナガイソウロウグモ m, ヤリグモ y, ボカシミ  
ジグモ M, ケベリミジグモ M, ムラクモヒシガタグモ f, ハラダカツクネグモ F,  
バラギヒメグモ F M, ムナボシヒメグモ M, コケヒメグモ F, ハイイロヒメグモ M

サラグモ科 アシヨレグモ F f, アシナガサラグモ y, ヘリジロサラグモ f, ユノハマサ  
ラグモ F

センショウグモ科 センショウグモ s p. f

カラカラグモ科 ヤマジグモ F M e, カラカラグモ m

コガネグモ科 ハツリグモ F f, アオオニグモ F, マルツメオニグモ f, オニグモ y,  
カラオニグモ F, ムツボシオニグモ F M, コガネグモ y, チュウガタコガネグモ f,  
コガタコガネグモ y, ヤマトカナエグモ m, ギンメッキゴミグモ F, キジロゴミグモ F,  
ゴミグモ f m, ヨツデゴミグモ F, ワキグロサツマノミダマシ y, ヤマシロオニグモ f  
サツマノミダマシ y, サガオニグモ F, カラフトオニグモ f

アシナガグモ科 オオシロカネグモ y, コシロカネグモ M f, メガネドヨウグモ f, ジョ  
ロウグモ y e, アシナガグモ f, ウロコアシナガグモ F M e

ヒラタグモ科 ヒラタグモ F y

タナグモ科 クサグモ y, クサグモ y, シモフリヤチグモ m, メガネヤチグモ y

キシダグモ科 スジプトハシリグモ F, スジアカハシリグモ f, イオウイロハシリグモ f  
アズマキシダグモ F M

コモリグモ科 ハラクロコモリグモ m, ウツキコモリグモ F

ササグモ科 ササグモ f

フクログモ科 カバキコマチグモ y, ヤマトフクログモ F e, ヤハズフクログモ m, ウラ  
シマグモ M

ワシグモ科 メキリグモ F

アシダカグモ科 コアシダカグモ F

カニグモ科 ワカバグモ M f, トラフカニグモ y, ヤミイロカニグモ M

エビグモ科 キハダエビグモ F M f, アサヒエビグモ y, シャコグモ m y

ハエトリグモ科 ネコハエトリF, マミジロハエトリf, ウデブトハエトリy, ジャバラ  
ハエトリM, ヤハズハエトリF, アリグモy, チャイロアサヒハエトリfm, マダラス  
ジハエトリF, デーニッツハエトリy, アオオビハエトリF, モンシロコゲチャハエト  
リF  
計22科87種

1998年度第2回採集観察会 1998/07/12 於埼玉県飯能市天覧山 天候曇り  
参加者(敬称略); 泉 宏子, 梅林 力, 小峰光弘, 権田則子, 作田圭子, 高橋 登, 谷  
川明男, 中島晴子, 新村 誠, 野崎文江, 伴 満, 日比章子, 平松  
毅久, 布施佳子, 古浜 隆, 和仁道大(以上16名)

### 目録

ジグモ科 ジグモF  
ウズグモ科 マネキグモy, カタハリウズグモF  
エンマグモ科 ミヤグモF  
ユウレイグモ科 ユウレイグモFe  
ヒメグモ科 カグヤヒメグモF, ヒメグモFM y, オオヒメグモFM, トビジロイソウロ  
ウグモF, オナガグモy, チリイソウロウグモf, フタオイソウロウグモM, オダカグ  
モFM, ホシミドリヒメグモy, ボカシミジグモF, ヒシガタグモF y, バラギヒメ  
グモy, ムナボシヒメグモFe  
サラグモ科 アシヨレグモy, アシナガサラグモm  
センショウグモ科 センショウグモF  
コガネグモ科 ハツリグモF, アオオニグモF, トガリオニグモf y, オニグモF, チュ  
ウガタコガネグモF, ナガコガネグモy, コガタコガネグモf, ヤマトカナエグモf,  
ギンメッキゴミグモy, ヤマトゴミグモy, ゴミグモF, ヨツデゴミグモy, オオトリ  
ノフンダマシy, シロオビトリノフンダマシF, コガネグモダマシF, ドヨウオニグモ  
y, ワキグロサツマノミダマシf, コゲチャオニグモy, ヤマシロオニグモF f, サツ  
マノミダマシM f  
アシナガグモ科 オオシロカネグモFM, コシロカネグモFM, キララシロカネグモF,  
キンヨウグモy, ジョロウグモy, ヤサガタアシナガグモFM, アシナガグモF  
ヒラタグモ科 ヒラタグモF y  
タナグモ科 クサグモF, コクサグモy, ヤマヤチグモF  
キシダグモ科 スジアカハシリグモy, イオウイロハシリグモFM  
コモリグモ科 ウツキコモリグモFe  
ササグモ科 ササグモFe  
フクログモ科 ヤギヌマフクログモF, イタチグモM y  
アシダカグモ科 コアシダカグモM(死体)  
カニグモ科 キハダカニグモf, コハナグモF, ハナグモy, ワカバグモF, ガザミグモ

y, アズチグモ f, セマルトラフカニグモ F, ヤミイロカニグモ F,  
エビグモ科 キハダエビグモ y, アサヒエビグモ F, シャコグモ F  
ハエトリグモ科 マミジロハエトリ f, アダンソンハエトリ y, ヤサアリグモ y, チャイ  
ロアサヒハエトリ F, カラスハエトリ M 計 19 科 75 種



## ジョロウグモの巣

野崎文江

6月の中旬すぎ、いつもとれたての野菜を売りに来る、農家のおじさんが、「田植えを5月下旬におえたけど気温が低いので心配だ。今年はどうだろうか。」というので、「きのう（6月17日）やっとジョロウグモがでたので、どうやら稲は大丈夫。ちょっと心配なのは、オホーツク海高気圧の動き、とにかく、水の管理をしっかりね。」と話した。クモの大きさは4ミリ3びきシロシキブの枝1.8メートルのところに巣をかけていた。6月14日まで朝の気温が20度以下午後の気温も19度天気は雨か曇り、16日に太陽が出てはれでも北の風2メートル、17日の午後は東風3メートル気温28.8度曇りこの日から南風が吹くようになった。下旬は曇りの日がつづいた。クモの姿がみえないどうしたのかと、さがすと、シロシキブの幹とアジサイの葉の間1メートルの巣をそれも下から50センチ位のところ、もう1びきは、物干しのハンガーの下に、3びきめはハンガーとアオキの茎、葉のつけねにいずれも1.2メートルの高さ、巣に顔を突っ込んでしまった。「ごめんね。」巣はこわれてしまった。翌日、同じ位置「なんだよ。こんな低いところに巣をかけて。」とクモに文句を言ってしまった。7月2日クモの数が増えた。メス2体、オス3体、体の大きさをはかってみると、メス7ミリ、オス4ミリ。8月になっても巣の位置は低い、8月の中旬腕を痛めて医者通い、わが家のクモだけかと調べてみた、毎週鶴ヶ島駅から天沼の病院の前までの路にいるクモを調べる。62ひき中57ひきが1.2メートル前後の高さ、1.5以上は5ひきだった。わが家のクモは7ひきは1.2メートル以内。1びきだけは3メートル、電話線にいる。例年8月今ごろは、1.8センチ以上のところにいる。メスのからだの発育はいいとはいえないでも、どの巣（8ひき）にもオスの訪れが、恋の季節が始まった。

(原文ママ)

会計は 安田明雄 〒231-0861 神奈川県横浜市中区元町5-219

## 「クモ」と「ヒト」の関係

1994年5月、私たちの採集観察会に雑誌「BE-PAL」の取材がありました。「BE-PAL」とは今流行りのアウトドアの情報誌のひとつですが、どこからか談話会の情報を聞きつけて雨の中取材にやってきました。その結果は同誌同年7月号に1ページを使って、コケやミドリコガネの研究会などと一緒に記事になりました。記事の内容について人によって、様々な感想があると思います。

ここ数年蜘蛛学というよりもクモの話が、マスコミの間にもチラチラ垣間見られるようになりました。環境問題としてのクモの位置が注目されたこともあり、クモを取り巻く学問的な前進とは別にして、クモそのものが話題になってきたと思います。

そしてここ十数年1970年代ぐらいから盛んになった、自然観察の愛好や昨今の環境問題の顕著化に伴って、クモに偏見なく接する機会も多くなっていると思います。

ではそのクモを研究観察することは、どれほど周囲からプラスの評価を与えられているのでしょうか。部外者から見ればクモを研究することとは、たとえば「鳥」の研究することとは決定的に違うように思えます。つまり研究や観察の対象が何であるかは、世間にとって大事なことなのでしょう。かつて鳥の研究などもかなりクモのエリアに近かったようですが、今は大分世間の中に入ってしまった。

ある種の生物にある嫌悪や偏見あるいは愛玩や憧憬は、形を変えてそれを取り巻く人間に返ってくると言っていていいでしょう。そしてクモという不快な生き物をいじくる人々とはどんな変人であるか、興味をそそる話題の一つではなのだと思えてなりません。

たださすがにこの頃はそういうスタンスがあらさま出た、記事やテレビ番組は少なくなったと思いますがどうでしょうか。それが研究者だけを対象にした報道でない以上、ある程度くだけた書き方、言い方は仕方ないことかもしれません。しかしそのくだけた方、つまり記事の書き手送り手の意識がどうなのか、結局そこにいきつくと思います。

最近は何事にも打込んだり、熱中するすると「オタク」という新しいレッテルを貼られることが出てきました。そしてクモオタクなる人々が、前とは別な意味で興味の対象になれるのでしょうか。

考えてみれば南方熊楠は粘菌オタクであり、金田一京助はアイヌ語オタクといったように理科文科を問わず、研究者と名のつく人はみな同じだと思います。ただ見ようによってそれは世間一般からはまさに「変人」あるいは「オタク」の部類に入るのでしょうか。

さて私たち個人々々がクモを観察あるいは研究の対象として、選んだ理由は何でしょうか。それは十人十色全ての人それぞれに違うものだと思います。大概の人はクモそのものに対する興味、関心があったということで、あるいは何かの信念というきっかけの方がいるかもしれません。ただそれはどんな学問どんな分野においても、みな同じだと思います。それがたまたまクモであったということだけです。私たちのほとんどは世間の分類や雑音など関係なくクモを追いかけたいし、また今後も追いかけ続けたいと思います。

(編)

郵便振込口座番号 00170-8-74885 東京蜘蛛談話会  
会費単年度 一般 ¥2,800 学生 ¥2,000

①私自身のクモ・データベースのホームページを作成しました。  
URLは下記です。『クモ生理生態事典』(改訂版)のファイルを掲載しました。ファイルをダウンロードしてご利用下さい。ときどき更新する予定です(ちなみに、URLはすべて半角小文字です)。

<http://village.infoweb.ne.jp/~hispider/>

このホームページは、クモとそれ以外の分野は別になっています。

②インターネットに接続せず、『クモ生理生態事典』(改訂版)をディスクで利用したい方は「spiderdic.htm」(Netscape Navigator か Internet Explorer で使用できるファイル)か「spiderdic.txt」(テキストファイル)のどちらかのファイルを入れたディスクをお送りします(ただし、ディスクの種類はHDで、DOS/V か PC に限ります)。送料と手間賃で適当な額を送って下さい(切手でも結構です。1000円もあると余ります)。ただこれだとファイルの更新が難しいですね。

③製本した事典の初版はまだだいぶ余っています。送料共 1000円です。今回の改訂版についてBOOK版を私は作成しません。

④ハエトリグモの仲間、お手持ちの標本がありましたら研究用に送って下さい。ジャバラハエトリ類、チビクロハエトリ類、コゲチャハエトリ類などが当面の課題です。また、個体変異の多いアリグモ類も石野田先生のお仕事を尊重しつつも、分類学的に解明すべく研究し始めました。全国の普通のアリグモやヤサアリグモが不足しています。またクワガタアリグモは手元にありません。数匹で結構です。分けて下さい。

㊗㊗ 事務局だより ㊗㊗

\*会員異動 1998年5月上旬～8月下旬 (敬称略)  
(住所変更等)

中野 隆雄：〒599-8126	大阪府堺市大美野15-4
高橋 米夫：〒950-0033	新潟県新潟市河渡新町2-3-5 松浜住宅RB棟306号
佐々木祐子：〒250-0872	神奈川県小田原市中里6-16 オピュレンス小田原102
甲守 崇：〒860-0076	熊本県熊本市壺川2-10-10
鈴木 成生：〒283-0811	千葉県東金市台方259-1

(入会)

亀川宇多子：〒241-0833	神奈川県横浜市旭区南本宿町92-8
藤沢 庸助：〒386-2303	長野県小県郡真田町傍陽8274
船曳 和代：〒670-0075	兵庫県姫路市北夢前台1-108
仲程 悦子：〒901-2131	沖縄県浦添市牧港1-63-10 コーポ202
峯澤 渉：〒232-0074	神奈川県横浜市南区永田山王台4-15 グランドイツ203

(希望退会)

東 千都子

# 景信山の伝説



この湖にまつわる話にこんなものがある。  
ある男が釣りをしていて、この日は面白いように魚が釣れ、思わず刺が枯った。ふと気がつく、足に白い糸のようなものが何本も巻きついている。ふしぎに思った男が足をあげようとすると石のように重かった。これはまたと白い糸をはずしてそばの木に巻いた。すると水の中から一匹の蜘蛛があらわれ、男の足に糸をかけて湖の中に巣を消した。蜘蛛はこうして何度も湖からあらわれて男の足に糸をかける。その度に男は木に巻きつけていると、やがて大きな木の林は蜘蛛の糸でいっぱいになった。  
この時、晴れていた空がにわかにはぐく入り、雷雨となって湖があやしく波立ったと見るまに人目にもある蜘蛛が水面にあらわれると、糸のか、つた大木を根こそぎ引き込んで消えた。命からがら逃げた男の話が伝わったわり、それからはこの湖で釣りをする者がいなくなったことである。

陣馬山に連なる景信山は、そのむかし、八王子城の背後を固める要衝であった。城が落ちた時、北条方に景信という勇猛な武将がいた。景信は片眼を失って射られながら、ようやくこの山にたどりついた。ところが峠道にさしかかった時、山の麓で馬の脚にかからまり、景信は馬もろとも高い崖から湖に転落してあえない裏期を遂げてしまった。  
以来、この山には怪風が生えず、景信が化身したといわれるこの湖に住むヤマメは片目が多くとつたえられ、景信の霊を慰めるため、この山を景信山と呼ぶようになったという。

(都立八王子図書館資料より、高安 馬)

篠原圭三郎さん提供

出典不詳



▽：幾何学模様のクモの巣の標本を洗い流すのを塗りつけた青や黒の台紙に張り付けた。三角形のオオギクモ、ドーム型をしたスズメグモ、馬蹄形のシロウグモなど模様のまろまろ。  
▽：継糸と横糸が織りなす不思議な芸術作品に、訪れた人からは「繊細で優雅さにあふれて魅力的」との声があまり、嫌われ者のクモも「目だけは至夜に。学会では三十三、二十四、各地のクモの生態などの研究発表が行われる。

立命館大キャンパス

学会プレイベント

# 子供ら指導受け

## 生態、特色など勉強

# クモじょうくり観察



滋賀県草津市の立命館大  
びわこ・くさつキャンパス  
で二十一日、「クモの観察  
会」が開かれ、地域の子どもや保護者たちが、キャンパス周辺でクモの探検に取り組んだ。

観察会は草津市立玉川公民館の自主事業「わんぱくブラザ玉川」の一環。自らが進んで考え、行動する力や他者への思いやり、協働心を育てるのが目的で、さまざまな体験、交流活動に取り組んでいる。同キャンパスで「第三十回日本蜘蛛学会」(二十二日)が開かれるプレイベントとして、大学や同学会に参加する子どもたち

毛研究家の協力を得て開催した。観察会には、玉川地区の小、中学生とその保護者ら約六十人が参加した。まず、立命館大の吉田眞・助教授がクモについて

と題してクモの生態や特色などを分かりやすく解説した。夕方からは、懐中電灯や採集用のフィルムケースを持って、キャンパス周辺でクモを観察。子どもたちは

吉田助教授と十一人のクモ研究家の指導を受けながらクサゲモやオオヒメクモ、ジョロウクモなどを見つけて、真剣なまなこで観察していた。

'98. 8. 22

読売新聞

提供：笹岡

'98. 8. 22

京都新聞 (滋賀版)

提供：笹岡

# 夏休みは スパイダー ウォッチング

SPIDER  
WATCHING



バード・ウォッチングという言葉を  
知っていますね。望遠鏡で鳥を観  
察することで、とてもはやっていま  
す。でも、バード・ウォッチングは  
もう古い！

今年の夏休みはスパイダー・ウォ  
ッチングをして、みんなをアツとい  
わせましょう。

スパイダーとはクモのこと。クモ  
はとても目が良くて、糸という道具  
を巧みに使ってエサを捕る不思議な  
生き物。観察してみると、面白いこ  
とがたくさん分かりますよ。

ほとんどのクモは、網にいます。ま  
下を向いています。自然保護センタ  
ーにいる百八十六種類のうち、上を  
向いているのはギンメツギゴミツモ  
一種類だけ。キミは見つけることが  
できるかな？

クモは普通虫を食べますが、魚を  
食べるクモもいます。センターの赤  
羽所長が、スジブトハシリクモが自

出典不詳  
赤羽尚夫さん提供

ことも  万つ

## ガイド

神奈川県立自然保護センター  
厚木市七沢657  
☎0462 48-0323  
09:00~16:30 月曜休園  
小田急線「本厚木」よりバス

「自然のミツミを探しに行こう!!」



特集  
自然観察①

No. 94 付録2

分より大きい魚を食べているところ  
をパチリ！ なんと、クモが魚を食  
べている写真は、日本で初めてだそ  
うです。

スジブトハシリクモは、網を張ら  
ず、水辺を歩きまわっています。ア  
メンボウのように水の上を歩くこと  
もできるのです。普段は虫を食べま  
すが、水中から魚の子供を捕まえて  
三十センチも高い藁の上にひっぱり上  
げて食べていました。こんなすごい発  
見ができるチャンスも、このセンタ  
ーにはあります。

そのほかに、オダカグモなどの大  
変珍しい種類もいます。鳥に食べら  
れないように、鳥のフンによく似た  
姿をしているトリノフンダマシ、葉  
にこみを集めてきて自分もこみのふ  
りをしているゴミクモなども面白い  
ですね。赤羽所長は、クモのことを  
とてもよく知っているクモ博士。い  
ろいろなことを教えてもらいましょ  
う。



水面に足を付けエサを待つ  
スジブトハシリクモ。

KODOMO  ATSUGI

コピーのコピーの為  
不鮮明です。ご容赦  
下さい。(編)



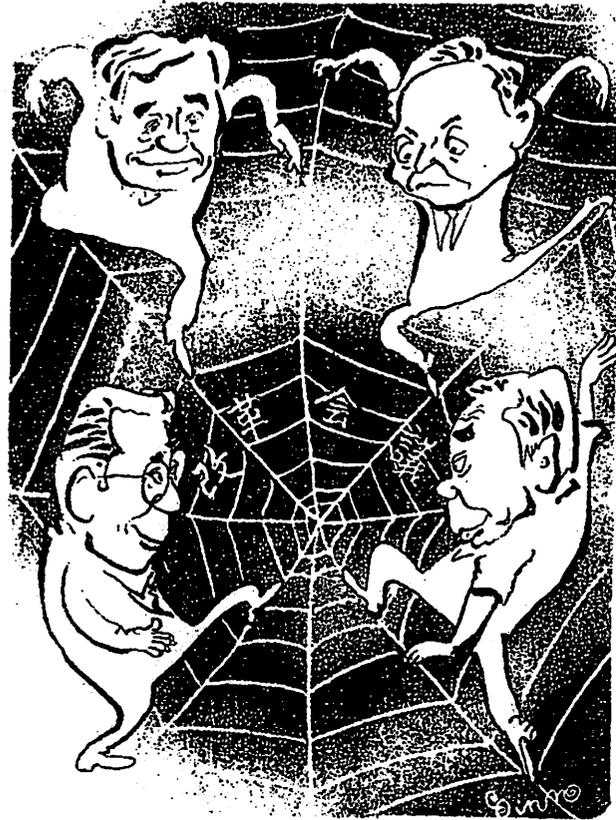
# まだ予報外だった？

## 雨量計に巣 デレタ途絶

長野気象台諏訪観測所

長野地方気象台・諏訪地域特別観測所（長野県諏訪市、無人）の雨量計にクモが巣を張り、同気象台に送信される雨量データが2日間にわたって途絶えていたことが5日、わかった。同型の雨量計は全国約1300カ所で使っているが「クモの巣で故障したのは聞いたことがない」と気象台もびっくりしている。

同気象台によると、7月26日午後4時半ごろ、無人観測所のデータを受ける気象台の遠隔監視装置が「故障」のサインを示し、諏訪観測所の雨量データが読み取れなくなった。同日は台風9号の影響で雨天だったが、データが全く届かないため翌日、職員が点検。雨量計の中をクモの巣を見つけた。クモはいなくなりました。

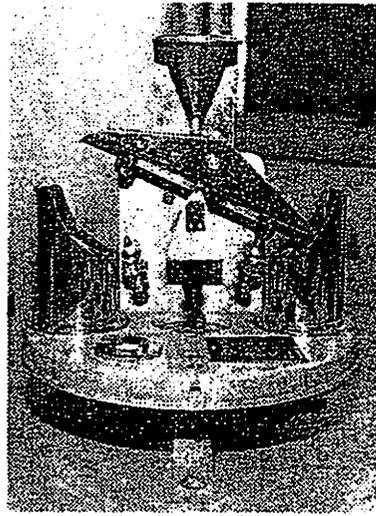


この辺で網を張ってエモノを待ちますか  
山田 紳

'97. 8. 26

朝日新聞

# クモの動き



雨量計は円すい型の容器（ロー）で雨水を受け止める。ローは「転倒升」に動く。転倒升に0.5mmの雨水がたまるのと、升が左右いずれかに倒れる。この時、升の両端がスイッチの役割をして電気信号を流し、電気信号の回数で降水量を計る仕組み。スイッチに当たる部分にクモが巣を張ったため、接触不良を起こしたらしい。

雨量計は円筒ケース（高さ約50cm、直径約30cm）に納め、地面から20〜30cmの高さに設置。天井と底には虫やごみを防ぐネットが二重に張ってある。ネットの上に落ち葉がたまって観測不良になるケースはこれまでもあったが、同気象台の須田弘文技術課長は「いったいどこからクモが入ったのか？」と首をひねっている。

【本多健、井上俊樹】

故障した雨量計と同型のもの。一番上のローから、てんびん型の「転倒升」に雨水が落ちると、升が左右に傾いて電気信号が流れる

毎日新聞（夕）

提供：笹岡

# 雲からの雨 クモが邪魔

## 体長2ミリのクモが巣 雨量測定器詰まる

雲ならぬクモに気象庁が頭を悩ませている。自動雨量計の内部にクモが巣をかけ、観測できない「事件」が続いたからだ。気象庁、観候所、アメダスなど全国約千三百カ所に設置された雨量計は基本的に同じ構造で、これまで「泥詰まり」として処理された故障も、クモの仕業の可能性が出てきた。同庁は気象象合に注意を呼びかけるとともに、学者の意見を参考にして対策の検討を始めた。

最初の「事件」は七月、長野県諏訪市の無人観測所で起きた。雨天なのに雨量計からデータが届かない。長野地方気象台の遠隔監視装置も「故障」を示した。職員が出向いて調べてみると、天びん式に左右に傾いて雨量を測る升到クモが巣をかけ、動かなくなっていた。

福井地方気象台では九月、強い雨にもかかわらず、観測値が極端に少ない異常が起きた。雨量計を分解して調べると、雨水が流れるはずの太さ約五ミリの管が詰まっていた。針金でつつくと、まゆ状の小さなクモの巣が出てきた。十月には横浜地方気象台でも管が詰まる故障があり、クモによる疑いが強いという。

気象庁観測技術課は、クモの生態に詳しい東京農工大の国見裕久・助教授に意見を求めた。「容疑者」は成体でも体長二ミルにしかならないサラシモとみられる。雨を集める上部のろうごも排水口に付けられた約三ミルの細かな金網をかいくぐって侵入したようだ。雨を集めるろうごとは、アリ地獄と同じように小さな生物が落ちてくると考えられ、クモにはえさが豊富な絶好のすみかだった。同課は、泥やちりだけで管が詰まるとは考えにくく、これまで注目されなかっただけで、被害の例はまだあると見ている。

同課は十月、注意を呼びかける文書を含気象台に流すとともに、網の目を一ミル以下に細かくし、罅の穴は粘土でふさぎ、殺虫剤をまくなど対策を練り始めた。管詰まりで外に雨水があふれる場合もあるため、改造も検討している。



クモが巣をかけた物と同種の雨量計の内部。指さしたろうごの中に細い管があり、下の天びんのような升で雨量を測る。使用時にはカバーで覆われ、上部には雨を集める直径約二十ミルのろうごが付く。気象庁で

↑

'97. 12. 9

朝日新聞

⇐ 梅林 力さん提供

'96. 1. 18

毎日新聞 (夕) ⇨

提供：笹岡 ⇨

★無謀 豪州の少年が室内でクモを退治しようと殺虫スプレーに点火したところ、火が放射状に広がり、家を全焼。少年は「ボンド(007)映画から思いついた」。(時事AFP)



雨量計にクモ侵入

# 9月の降水量 『欠測』扱いに

福井の气象台、横浜でも同様被害

福井地方气象台に設置してある雨量計に今年九月、クモが侵入、雨水が通る管の中で奥つくりをしたため雨水が詰まって降水量が測

れなくなった。このため同气象台が九月の降水量を「欠測」としたことが二十日までに分かった。同气象台での欠測は一九四五年の空襲で被害を受けて以来、という。横浜地方气象台も同様のクモの被害で十月の降水量を欠測としている。

福井地方气象台によると、大雨洪水警報の出た九月八日未明、雨量計の数値が上がらないのに気付いた観測員が雨量計を調べたところ、雨水を通すパイプ中に糊状のクモの巣を発見した。

雨量計はじょうごで受けた雨水が約五分の管を通って入るのを箱で受ける。雨水が箱にたまると箱が回転、雨水が落ちて数値が記録されるシステム。

実際に降水量を測れなかったのは八日の午前零時から午前十時までの間だった。他の観測所のデータからこの十時間の間には約七六センチの雨が降ったと推定される。

福井地方气象台の星野薫防災課長は「欠測には抵抗があったが、データの精度を維持するためにはやむを得ない」と話している。

97.11.30  
東京新聞  
新海 明さん提供

クモが何かの使いだとういふ言ひは、日本にも盛吹にもあるという。ちやうかとうて、幸運とか、よき来客の到来というふうな、吉兆を告げる使いと見なすものが多いようである。

## 知られざる小さな隣人

### クモの不思議な生活

マイケル・チナリー 著  
斎藤 慎一郎 訳

クモはごく身近な生きものであるが、ちやうと見知らぬ世界からの訪問者といった、小エイリアンの趣を感じさせる。そたいの知れない小さな隣人として、親しみを持たれるよりは毛嫌いされることのほうが多い。八本足で昆虫類ではないことを知っている程度で、その不思議な生活のことを、僕らは全くと置いているほど知らない。

本書は、英国の生物学者が一般向けに書いた、興味深いクモ世界の博物誌。大

もたぐきいいる。トナカイ人から子供まで読めるし、多数のイラストが目玉。クモがいろいろと居る、イマせてくれる。ちよびりユーマウスに描かれたクモ物にかけるクモがいる。技

の姿がなかなかかわい。全世界には、約四万種のクモがいるという。おなじみの同心円の網のほかには千差万別の網の張り方をする種類があるし、網

を張らずに狩をするクモの足跡のくぼみに網を張るクモがいろいろと居る、イマせてくれる。ちよびりユーマウスに描かれたクモ物にかけるクモがいる。技

クモは何種類もの糸膜を持ち、各種の糸を使い分けている。網に似た糸の成分はリサイクルされ、網を張る番になるときなどは古い網を食へてしまおうという。糸は、若いクモが新天地を求めて飛行するときにも使われる。陸地から百も離れた船や、高度三千の飛行機が、このクモの飛行と遭遇するといふから驚く。

性愛も手が込んでいて、求婚ダンスや贈り物が必要などともあれば、なんと花嫁が糸で縛られるという愛の儀式を行う種類まである。

小さな世界に大きな不思議を見つけて出す。自然の魅力を教えてくれる好書だ。

（株）学芸社・一九〇〇年

け縄を使ったり毒糸を吐きつけて獲物を仕留めるクモ、魚釣りをするクモ、花弁に偽装してハチを騙すクモ...

8/2  
97.8.1  
神奈川新

# 横浜地方 気象台

# クモの集で雨量測れず

福井でも

横浜地方気象台に設置されている雨量計内に今年十月上旬、クモが侵入し、雨水が通るパイプに巣を張ってしまったため、雨水がパイプからあふれ出し降水量が測れなくなった。このため同気象台が十月の降水量を「欠測」としていたことが、二十九日までに分かった。

## 計器に侵入



## パイプが目詰まり 「欠測」 10月の記録 扱いに

同気象台によむ、十月四日から五日にかけて横浜地方で最近としてはかなりの雨が降ったが、雨量計の五日の降水量の数値がなぜか、ゼロを指していた。観測員が雨量計を開け手を入れたところ、雨量計内の雨水器のパイプ（直径約五センチ）に入り込んだ一匹のクモを発見。このクモが巣を張ってパイプが目詰まり、雨水が外にあふれ出したことが分かった。

クモは体長一・五センチと超ミニサイズ。同気象台はクモのいたずらで起きた、この天測の事案を、「クモの生態など生物学的なこととは分らないが、極めてまれな出来事」と話している。

珍事は同気象台だけでなく、福井地方気象台でも今年九月に雨量計にクモから入、九月の降水量が「欠測」扱いになっている。同気象台によむと、大雨洪水警報が出た九月八日未明、雨量計の数値が上がらないのに気付いた観測員が附帯を調べてみると、雨水を通すパイプ内に繭状のクモの巣を見つけた。同気象台での欠測は一九四五年の空襲被害を受けて以来という。

雨量計は、しぼりて受けた雨水が約五センチの管を通ってくるのを箱で受ける。雨水が箱にたまると箱が回転、雨水が落ちて数値が記録されるシステム。全国の気象台で同じタイプの雨量計が使われている。この管にクモの巣があつたため雨水が通らなくなつたわけだ。

気象庁の統計資料によむ、間に一〇％以上の雨量の欠測がある場合は月単位で「欠測とする」としている。横浜、福井の両地方気象台はクモの巣が管を詰まらせている間に推定雨量が一〇％を差えたため欠測とした。

横浜地方気象台では「雨量計が欠測であれば、年間降水量の正確なデータはできないことになる。年間降水量として示す場合は十月は除くとたし書きを入れる必要がある」と話している。

↑  
池田博明さん提供  
↓

97.11.30

神奈川新聞